



地域や自治体に、食の安全を広げるには？

＜遺伝子組み換え・「ゲノム編集」食品は食べたくない＞ 講師 印鑰智哉さん

11月30日(月)に、「日本の種子(たね)を守る会事務局アドバイザー」の印鑰智哉さんをお迎えして参加者60名がオンラインで講演会を視聴しました。遺伝子組み換え作物(GMO)は、ばらばらにした細胞に遺伝子操作をして新たな性質(農薬をかけても枯れない・虫を殺すなど)をもたせるもので、おもな作物は、北米・南米で多く生産されている大豆やとうもろこしです。米国では、GMO作物の摂取が増えるのに比例して慢性疾患やガンなども増加。それを受け、米国内ではNON-GMO運動が広がってきています。その動きは世界各国でも同様です。GMOの耕作国も耕作面積も減少傾向で遺伝子組み換えは限界に近づいています。それに伴い台頭を表してきたのが「ゲノム編集」です。

「ゲノム編集」は、遺伝子の特定部分を切り取って編集するというイメージですが、実際は破壊しているだけなので機能欠損品種で、今までになかったものが作り出されてしまい、安全性は検証されていないのに開発は進行中です。2020年、【CRISPR-Cas9】(クリスパー・キャスナイン)という手法の開発がノーベル化学賞を受賞し、様々な問題点を議論しないままに遺伝子改変の技術開発が一層加速されているようです。応用範囲も広いので懸念材料もいくつかあります。

GMOと「ゲノム編集」規制が進むEU諸国やニュージーランド・アジアの一部では有機作物の割合が増えてきています。

それに反して日本は、米国からファクトリーファーム(工場式畜産)でGMO作物を餌とし、抗生物質漬けの家畜たちの肉を輸入し、「ゲノム編集」も解禁。知らない間にGMO作物を口にしています。ヨーロッパに輸出するときには表示しているGMO加工食品も、国内では検出できないからと表示されていません。

このような状況の中、私たちが安全な食べ物を食べ続けるためには、地域からの働きかけが重要になります。例えば、学校給食の有機化をきっかけに、地域や自治体でローカルフード条例をつくり、有機農業と産直提携を取り戻している地域が次々と生まれています。食について広い視野で考えを深める有意義な80分でした。

(環境委員 吉鶴陽子)

2020年12月11日ゲノム編集で血圧を下げる成分をふやしたトマトを国が初承認しています



参加者の声を紹介します

遺伝子組み換え技術やゲノム編集技術について、なぜ危険なのか、避けなければいけないのかが具体的にわかり、大変勉強になり良かった。zoomでの開催なら自宅で気軽に参加することができ、どんどんこの形を増やしていくべきだと思う。(名古屋東エリア組合員)

学校給食から変えていくと共感を得やすいとお話。ぜひ愛知でも、「1人1人の想い」を「運動」にしていければ、と思いました。(名古屋北エリア組合員)

遺伝子組み換えもゲノム編集も不確かなものだという事がよくわかりました。今の日本の状況では、知らずに摂取してしまっているのだからこの健康状態が気になります。政策もアメリカ追従で後手に回るばかりなので、私たち消費者が声を上げていくことが重要だと思いました。(名古屋南エリア組合員)

「遺伝子組み換えはいらない」活動に新たに多くの組合員が参加!

GMOフリーゾーンサポーター活動は遺伝子組み換え作物を「作らない」「買わない」「売らない」ことを宣言する人を支援するために全国の志を持つ生協が取組み、現在、1.6万人がフリーゾーンサポーター宣言しています。今年度、生活クラブ愛知では、環境委員会ニュースでの呼びかけに応じ、新たに多くの組合員がGMOフリーゾーンサポーターの宣言をしてくれました。

4人が自分の農地の「GMフリーゾーン」を宣言! 169人がGMOフリーゾーンサポーターを宣言!

生活クラブではすべての消費材で遺伝子組み換え不使用を追求しています



忘れないで！ 福島を！！

福島の今を知る、バーチャル視察

環境委員 伊神瑞恵

1月18日、環境委員会は「生活クラブでんき」を進める活動の中で、福島県飯館村が取り組んでいる飯館電力をオンラインで研修することができました。あの、悲惨な東日本大震災から10年後の飯館村を飯館電力の米沢・千葉両氏の案内でバーチャル視察が始まりました。冒頭千葉氏は、ヨーロッパでは2050年自然エネルギー率を100%、CO2を100%削減する目標を掲げているのに日本では半分も無い、と苦々しく語られました。

緑溢れる田舎ののどかな風景の中、真っ黒なフレコンバック(除染土)の山と対比的な太陽光パネルが印象的でした。原発事故により全村避難を強いられた飯館村で安全な自然エネルギーへのスイッチングと、自然エネルギーの増加、脱原発、復興支援を掲げて飯館電力を立ち上げられました。

飯館村は人口5700人と3千頭以上の牛が暮らす「日本で最も美しい村」に認定されていました。第一原発から放射性物質を含んだ高濃度のブルームが日本至る所に流れ、2017年3月31日迄全村避難が続きました。2014年飯館電力を立ち上げたものの、村民からの出資は全く無く、老人ホームのおばあさんが寄付をして下さった事がテレビで放映され、寄付が集まったそうです。村内で49基発電し、太陽光パネルの下で栽培した牧草を村内の畜産家に無償提供する、ソーラーシェアリング(営農型太陽発電)事業で、村民は、施工、保守を、地権者は地代を、出資者は株の配当を、飯館村には納税を、という仕組みです。

千葉さんは、「今の福島は、天気予報に放射線量測定値が流れます。世界の動向は全ての国が原発ゼロを目指しています。日本のエネルギー自給率は9.6%で、最下位から2番目です。生活クラブの生活宣言は食とエネルギーと助け合いをできるだけ自給し循環させる社会づくりです。安心安全な食と安全なエネルギーで、震災復興支援の伝道師となって欲しい！福島に是非来て欲しい！」と結ばれました。飯館電力のバーチャル視察とても胸に迫りました。多くの組合員さんに是非是非見て欲しいです。震災に遭われた方々を忘れてはなりません。



【2019年6月10日】
飯館村 太陽光パネルの下、
牧草収穫作業中の様子

見てね！



右のYouTube
「飯館電力～飯館村の復興と
再生を目指して」



「飯館電力」は生活クラブエナジーの再生可能エネルギー発電所の1つです

固型せっけんが おしゃれに変身！！



2月2日(火)参加者22名でせっけんカフェがリモートで開催されました。初めに固型せっけんにデコパージュをしました。ペーパーナプキンの柄を切り取り専用のりで貼り付けると、白い固型せっけんがカラフルに変身！おまけにこの面は溶けにくくなるという、利便性も加わりました。

次にコーヒー、紅茶を各自で入れてカフェタイム。せっけんエピソードで自己紹介の後、洗濯、食器洗い、洗髪etc. 固型せっけんだけでなく、洗濯用せっけん、せっけんシャンプーなどに話が広がり、新しい使い方、よりよい使い方、使うための工夫などの情報交換もでき、実り多い時間になりました。

せっけん使おう！7月の「シャボン玉月間」のキャッチコピーに、
な、な、なんと愛知の環境委員の作品が選ばれました！

「見直そう！せっけんパワー 変えよう！私と地球の未来」

「シャボン玉月間」には全国の生協団体などが参加しています。



10～12月の「生活クラブでんき
ありがとうキャンペーン」に113
人が応募！新たに11人が「生活
クラブでんき」を契約しました！

9～11月の「500m | びん回収
キャンペーン」に503人が応
募！回収率がアップしていま
す！

せっけんの本を貸し出しします！

「せっけんと合成洗剤50のQ&A」

貸し出し希望の方は、お電話ください。

TEL(052)899-0770 生活クラブ愛知本部 組織部まで